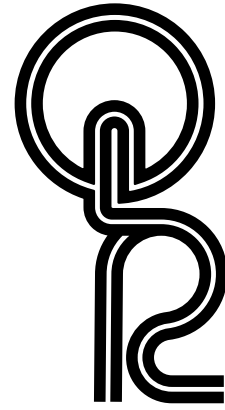


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 7 No. 3, 2000



前期旧石器時代，小鹿坂遺跡（埼玉県秩父市）の発掘風景：スケール後方に2つの石器がならび、写真上方の壁面には、石器が45 - 50万年前であることを示す2枚の軽石層が露出する。 撮影：鈴木毅彦

Vol. 7 No. 3

June 1, 2000

2000 地球惑星科学関連学会合同大会	2	『第四紀研究』バックナンバー販売	11
Western Pacific Geophysics Meeting	3	公募	12
日本第四紀学会 2000 年大会第 3 報	4	第四紀研究連絡委員会議事録	13
Taiwan Meeting 2001 (INQUA)	8	幹事会議事録	13
学生会員届けの提出について	10	会員消息	14

2000年地球惑星科学関連学会合同大会（第4報）

1. 会期

2000年6月25日（日）～6月28日（水）

なお、6月27日（火）30日（金）にはAGU-WPGM（後記）が同会場で開催されます。

2. 会場

国立オリンピック記念青少年総合センター（〒151-0052 渋谷区代々木神園町3-1）

・小田急線「参宮橋」駅下車 徒歩約7分

・地下鉄千代田線「代々木公園」駅下車 徒歩約12分

（会場案内図は第3報をご覧ください）

3. 「第四紀」セッション（記号Qa）のプログラム

プログラムは、地球惑星科学関連学会合同大会ホームページ(<http://mc-net.jtcom.co.jp/earth2000/>)でも確認できます。なお、下記のプログラムでは、著者が4名以上の場合は、最初の3名だけが記載されています。

オーラルセッション 6月26日（月）13:00～17:30 401会場

座長：中村俊夫・兵頭政幸・森脇 広・鈴木毅彦

- 13:00-13:14 いくつかの材料を用いた海底堆積物の放射性炭素年代測定値の比較 池原 研
- 13:14-13:28 琉球石灰岩の TL 年代測定 II 蛭川清隆・西戸裕嗣・豊田 新ほか
- 13:28-13:42 Single grain 法による火山噴出物の TL 年代測定
..... 山縣理恵・印牧もところ・遠藤邦彦
- 13:42-13:56 南九州の更新世テフラの ITP-fission-track 年代とその意義
..... 森脇 広・Westgate, J.・Sandhu, A. ほか
- 13:56-14:10 秩父盆地に分布するテフラと考古編年上の意義 鈴木毅彦・栗島義明
- 14:10-14:24 高山盆地に分布する上野泥流堆積物と福地凝灰角礫岩層の対比 - “古梓川”の流路
変遷 - 田村糸子・山崎晴雄
- 14:24-14:38 中期更新統居谷里層および新行層の層序・年代と松本盆地東縁断層系の
活動開始時期 植木岳雪
- 14:38-14:52 新潟県十日町盆地信濃川左岸地域における河成段丘面の対比・編年
..... 若林優子・金 幸隆・吾妻 崇
- 休憩5分（14:52-14:57）
- 14:57-15:11 下北半島北部，田名部低地帯における中・後期更新世の地殻変動
..... 桑原拓一郎・山崎晴雄
- 15:11-15:25 備讃瀬戸層群上部層の層序と堆積環境 川村教一
- 15:25-15:39 海成粘土の電気的特性と堆積環境との関係 川村大作・中川康一
- 15:39-15:53 埋没深度30cmまでの極表層堆積物のマイクロファブリック 川村喜一郎
- 15:53-16:07 スケアブランド洪水流の数値計算による地質情報の解釈
..... 宮本英昭・小松吾郎・伊藤一誠ほか
- 16:07-16:21 八甲田窪地の二酸化炭素 近藤裕昭・鶴見 実・内田篤貴
- 16:21-16:35 炭素安定同位体比分析による青森県八甲田山高濃度二酸化炭素の起源の推定
..... 吉村和久・鶴見 実

16:35-16:49 八甲田火山性ガス..... 鶴見 実・平林順一・吉村和久ほか

休憩 5 分 (16:49-16:54)

ポスターセッション (口頭による概要紹介)

- 16:54-16:57 八甲田山代平における高濃度二酸化炭素の分布 鶴見 実・戸塚祐司・内田篤貴
 鶴見 実・戸塚祐司・内田篤貴
 16:57-17:00 高密度電気探査を用いた火山ガス発生メカニズム 内田篤貴・鶴見 実
 17:00-17:03 アジアの原人の古地磁気年代 兵頭政幸・仲谷英夫・ト部厚志ほか
 17:03-17:06 最新型加速器質量分析計を用いた高精度、高正確度 ^{14}C 年代測定に向けて
 中村俊夫
 17:06-17:09 氷成堆積物のルミネッセンス年代測定 近藤玲介・塚本すみ子・岩田修二
 17:09-17:12 OSL 法による河成段丘堆積物の年代測定 幡谷竜太・田中和広
 17:12-17:15 日本の海成段丘アトラスの作成 藤原 治
 17:15-17:18 三陸北部久慈地域における洞爺火山灰および海成段丘堆積物の発見
 白井正明・遠田晋次・田中和広
 17:18-17:21 十和田火山最新噴火に伴う泥流災害 赤石和幸・光谷拓実・板橋範芳
 17:21-17:24 浅間山東南麓湯川のポットホールについて (2) 戸田雅之・長内優之
 17:24-17:27 1959 年宮古島台風によってもたらされたウオッシュオーバー堆積物
 重野聖之・牧野彰人・七山 太ほか
 17:27-17:30 ボーリング試料解析に基づく徳島平野の中央構造線活断層系の完新世における活動
 中西利典・竹村恵二

2000 Western Pacific Geophysics Meeting

by American Geophysical Union

アメリカ地球物理学会 2000 年西太平洋地球物理会議

2000 年 6 月 27 日 (火) ~ 30 日 (金)

国立オリンピック記念青少年総合センター

2000 年地球惑星関連科学合同大会と同じ国立オリンピック記念青少年総合センターで、一部期間を重ね合わせてアメリカ地球物理学会 (AGU) 主催、日本第四紀学会を含む地球惑星関連学会後援によって表記の会議が行われます。この会議は西太平洋地域各地で毎年 1 回開催され、地球物理学の広い分野の話題が議論されます。

地球物理学と第四紀学は、大気・海洋、環境変動と古環境、水文、地形・地質、地震・テクトニクス、火山研究など幅広い分野で接しています。この機会に是非地球物理学の最先端に触れてみてください。プログラム・登録等の詳細はアメリカ地球物理学会ホームページをごらん下さい。

学会ホームページ： <http://earth.agu.org/>

大会ホームページ： <http://earth.agu.org/meetings/wp00top.html>

2000年第四紀学会大会のお知らせ(第3報)

1. 大会内容, 日時, 開催場所の概要

大会内容: 一般研究発表, シンポジウム, 総会, 評議員会, プレシンポジウム, 巡検

日程: 2000年8月23日~27日

開催場所: 佐倉市 国立歴史民俗博物館(本大会)

千葉市 千葉県立中央博物館(プレシンポジウム, 巡検)

2. 発表の申し込み(締め切り6月16日(金)): 詳細は第2報をご覧ください.
3. プレシンポジウム, シンポジウムのプログラム
4. 巡検の概要(申し込み, ほか)
5. 懇親会
6. 講演予稿集の販売について
7. その他: 評議員会
8. 宿泊案内

1. 日時, 開催場所の概要

プレシンポジウム(参加費無料, 一般参加可)

共催: 千葉県立中央博物館「中央博物館自然誌シンポジウム」

日程: 2000(平成12)年8月23日(水)

開催場所: 千葉県立中央博物館 講堂

実行委員: 岡崎浩子・江口誠一・奥田昌明

連絡先: 岡崎浩子

千葉県立中央博物館(ホームページ: <http://www.chiba-muse.or.jp>)

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2

Tel 043-265-3111 Fax 043-266-2481

e-mail: kohiroko@chiba-muse.or.jp

研究発表大会及びシンポジウム(参加費2000円)

日程: 2000(平成12)年8月24日(木)~26日(土)

開催場所: 国立歴史民俗博物館 講堂, ガイダンスルーム, 大会議室

実行委員会: 委員長: 辻 誠一郎 副委員長: 岡崎浩子

委員: 春成秀樹・今村峯雄・西本豊弘・青山宏夫・坂本 稔・
津村宏臣・久保純子・樋泉岳二・江口誠一

連絡先: 辻 誠一郎

国立歴史民俗博物館(ホームページ: <http://www.rekihaku.ac.jp>)

〒285-8502 千葉県佐倉市城内町 117

Tel 043-486-0123(代表) 内線 481 Fax 043-486-4299(研究部)

e-mail: tsumura@rekihaku.ac.jp(c/o, 津村宏臣, 歴博大学院生)

巡検

日程: 2000(平成12)年8月27日(日)

実行委員: 岡崎浩子・中里裕臣・佐藤弘幸

連絡先: 岡崎浩子

8月23日(水) プレシンポジウム『房総半島の第四紀』

8月24日(木) 一般研究発表, ポスター展示, 評議員会

8月25日(金) 一般研究発表, ポスター展示, 総会, 懇親会

8月26日(土) シンポジウム『21世紀の年代観 - 炭素年から暦年へ』

8月27日(日) 巡検(木更津市周辺)

2. 発表の申し込み

申し込みの締め切りは6月16日(金)(必着)です。詳細は第2報をご覧ください。

3. シンポジウム

3-1. プレシンポジウム

『房総半島の第四紀 - 地層・地形から読む海水準変動とテクトニクス』

プレシンポジウム世話人：岡崎浩子・江口誠一・奥田昌明

プログラム

- 10:00-10:05 シンポジウム趣旨説明 プレシンポ世話人会
200万年前～50万年前
- S1 10:05-10:35 21世紀の深海掘削と第四紀学 - 房総における陸海域掘削の提案 -
..... 平 朝彦(東大海洋研)
- S2 10:35-11:05 上総層群大田代層～梅ヶ瀬層で認められた氷河性海水準変動とその堆積物
への影響(仮題)..... 辻 隆司
..(石油資源開発)・宮田雄一郎(山口大・理)・中水 勝(石油公団)
<コメント>
- S3 11:05-11:25 上総層群の陸棚深海底堆積物に記録された氷河性海水準変動.....
..... 堀川恵司・高野壮太郎・伊藤 慎(千葉大・理)
- 休憩5分(11:25-11:30)
- 50万年前～2万年前
- S4 11:30-12:00 下総層群の年代と“鹿島”隆起帯の運動.....
..... 中里裕臣(農業工学研究所)・佐藤弘幸(静岡聖光学院)
- S5 12:00-12:30 下総層群の堆積ダイナミクス.....
..... 岡崎浩子(千葉県立中央博物館)・中里裕臣・佐藤弘幸
- 昼食 12:30-13:30
- 50万年前～2万年前つづき
- S5 13:30-14:00 下総層群の底生動物化石群集,特に堆積作用,海水準変動,テクトニクス
の影響..... 近藤康生(高知大・理)
<コメント>
- S6 14:00-14:20 古東京湾の堆積システムに記録された海水準変動とテクトニクス.....
..... 西川 徹・杉本英也・伊藤 慎(千葉大・理)
- S7 14:20-14:40 房総半島の地形から読む中・後期更新世の海水準とテクトニクス.....
..... 菊地隆男(都立大・理)
- 休憩5分(14:40-14:45)
- 2万年前～
- S8 14:45-15:15 房総半島東京湾側の沖積層と海水準変動..... 斎藤文紀(地質調査所)
<コメント>
- S9 15:15-15:35 房総半島の地形形成とサイスマテクトニクス.....
..... 穴倉正展・宮内崇裕(千葉大・理)
- S10 15:35-16:05 房総半島太平洋側の沖積層と海水準変動.....
..... 増田富士雄(京大・理)・藤原 治(東濃地科学セ)・酒井哲弥(京大・理)
- 総合討論 16:05-16:25

3 - 2 . シンポジウム

『21世紀の年代観 - 炭素年から暦年へ』

シンポ世話人：春成秀爾・今村峯雄・中村俊夫・辻 誠一郎

プログラム

- 09:30-09:40 シンポジウム趣旨説明 シンポジウム世話人会
S1 90:40-10:10 放射性炭素年代とその高精度化 中村俊夫 (名大・年代セ)
S2 10:10-10:40 湖沼年縞・レスを用いた自然環境変遷の高精度編年と暦年代
..... 福澤仁之 (東京都立大・理)
S3 10:40-11:10 生態系史の高精度編年に向けて 辻 誠一郎 (国立歴博)
休憩 20分 (11:10-11:30)
- 特別講演
11:30-12:30 考古学の年代 佐原 眞 (国立歴博)
昼食 12:30-13:30
- S4 13:30-14:00 旧石器時代から縄文時代へ - 東日本の場合 - 谷口康浩 (國學院大)
S5 14:00-14:30 旧石器時代から縄文時代へ - 南九州の場合 -
..... 児玉健一郎 (鹿児島県教委)
S6 14:30-15:00 縄文時代から弥生時代へ - 問題と展望 今村峯雄 (国立歴博)
休憩 15分 (15:00-15:15)
- S7 15:15-15:45 縄文時代の高精度編年と展望 春成秀爾 (国立歴博)
S8 15:45-16:15 中部ヨーロッパにおける最終氷期～後氷期の較正年代と考古学
..... 小野 昭 (東京都立大・人文)
- 総合討論
16:15-17:15 考古学における編年と年代 司会：岡村道雄 (文化庁)

4 . 巡検

『地層から読む海水準変動とテクトニクス』

プレシンポジウムの内容に関連した巡検です。

下総層群中部層の露頭観察と挟在する火山灰の観察をおこないます。

日程・コース・案内者・必要地形図・募集人員：

8月27日(日)木更津市周辺の地層

案内者：岡崎浩子(千葉県立中央博)・中里裕臣(農業工学研)・佐藤弘幸(静岡聖光学院)

集合：JR木更津駅(10:00) 木更津市真理谷 木更津市田川 富津市大鷲 君津市坂田

解散：JR木更津駅(16:30)

必要地形図：5万分の1 木更津，姉崎，富津，大多喜

募集人員：40名

移動：大型バス

参加費用：4000円程度

申し込み方法：

参加を希望の方は，はがき，FAXまたはE-mailにて，氏名，性別，所属，連絡先(住所，電話，FAX番号，E-mailアドレス)，既に定員オーバーの場合のキャンセル待ち希望の有無を明記のうえ，下記宛，申し込んで下さい。先着順に受け付けます。電話での受付はいた

しません。受付後、個別に案内などをお送りします。なお参加確認と参加費の徴収及び巡検案内書の手渡しは学会期間中に、巡検コーナーを設けて行う予定です。巡検のみ参加される方はその旨をお書き添え下さい。

申込先：

〒260-8682 千葉市中央区青葉町 955-2
 千葉県立中央博物館 地学研究科 岡崎（熊代）浩子
 Fax:043-266-2481 E-mail:kohiroko@chiba-muse.or.jp
 申込締切：7月10日（月）（先着順に受け付けます）

5. 懇親会

日時：8月25日（金）18時から
 場所：国立歴史民俗博物館 エントランスホール
 懇親会参加費：未定

6. 講演予稿集の販売について

講演予稿集の予約販売は致しません。8月23日（水）より、会場受付にて直接販売致します。郵送ご希望の方は、大会終了後、第四紀学会事務局（学会事務センター）へ直接申し込んで下さい。

7. その他

評議員会は、8月24日（木）の夕方に実施致します。時間、会場等の詳細については、学会事務局より各評議員に個別に連絡いたします。

8. 宿泊案内

日本第四紀学会歴博大会の宿泊案内です。千葉市周辺の宿泊施設はたくさんありますが、佐倉市周辺の宿泊施設は限られておりあまり選択の余地はありません。お値打ちな宿の一部をリストアップしました。宿泊申込は各自で行って下さい。料金等は申込の際にご確認下さい。

千葉市周辺

共済組合関係宿泊施設

（中央博物館周辺）

地方職員共済組合プラザ菜の花 043-222-8271 ￥7000～

一般宿泊施設

（中央博物館周辺）

川口旅館 043-227-0676 ￥7000～

ホテルニューコマツ 043-227-8585 ￥10000～

（JR千葉駅周辺）

ホテルニューコマツ 043-227-8585 ￥10000～

ホテルサンガーデン千葉 043-224-1131 ￥8100～

佐倉市周辺

一般宿泊施設

（JR佐倉駅周辺）

ホテル リッチタイム 043-486-7711 ￥6800～（朝食付き）（￥1000割引）*

佐倉第一ホテル 043-484-5000 ￥5800～（朝食別，￥800）（￥600割引）*

（京成佐倉駅周辺）

ロイヤルイン菊水 043-486-8808 ￥5900～（朝食別，￥800）

* 印では、予約時に歴博関係者である旨を通知すると割引があります。

The First International Meeting on Sea-level changes and coastal evolution (INQUA) and Neotectonics (INQUA)

下記のような国際会議を2001年10月に実施いたします。INQUAの海面変化およびネオテクトニクス両研究委員会の活動の一環で、日本の第四紀研究連絡委員会なども協力いたします。両委員会に関連するテーマの発表および巡検（集集地震による地震断層および東海岸の完新世海成段丘など）です。多くの方のご参加を期待しております。以下はその第1報です。不明の点などありましたら太田陽子までお問い合わせください。

FIRST CIRCULAR Call for Papers and Provisional Registration

The First International Meeting on Sea-level changes and coastal evolution (INQUA) and Neotectonics (INQUA)

Topic: Eastern coast of Taiwan and 1999 earthquake landform

Date: October, 17-24, 2001

Sponsors

Commission on Sea-level changes and coastal evolution (INQUA)

Commission on Neotectonics (INQUA)

The Quaternary Research Group of the Geological Society of China located in Taipei

The Department of Geology, National Taiwan University

The Institute of Earth Sciences, Academia Sinica

National Science Council of the Republic of China

Cosponsors

ICSU International Lithosphere Program:

Task Group II-5 Earthquake Recurrence through Time

Task Group II-2 World Map of Active Fault

IGCP 437 Non Steady State of the Inner Shelf and Shoreline

Japanese National Committee for Quaternary Research

Western Pacific Subcommittee of Commission on Sea-level changes and coastal evolution (INQUA).

Introduction

The INQUA Commission on Sea level Change and Coastal Evolution and Commission on Neotectonics, International Union for Quaternary Research

(INQUA) together with the Quaternary Research Group of the Geological Society of China located in Taipei, take the pleasure in announcing the First International Meeting which will be held at National Taiwan University, Taipei in October 17-24, 2001.

The meeting is open to scientists with interests in sea-level changes and coastal evolution as well as neotectonics.

Objective

The main objective of this meeting is to provide a forum for presentation and discussions on recent developments in sea level change, coastal evolution and neotectonics on global, regional and local scales of the world and to stimulate these studies among colleagues with new findings.

Themes

- active fault and its landforms
- earthquake faults associated with major earthquakes
- neotectonics in orogenic belts
- coseismic movements of coastal terraces
- shoreline evolution in tectonic active areas

Call for papers

Participants willing to present a paper/poster are requested to submit a title and extended abstract (up to 3-4 pages, A4 size, double spaced, including illustrations and references) in English by 30 June, 2001. Details will be given in the second circular.

Program

The meeting will include

- two days of oral and poster sections
- four days post congress field excursion to eastern

coast, visiting the rapidly uplifting Holocene terraces and to central Taiwan, the 1999 Chi-chi earthquake faults.

-subcommission and working group meetings
-a program for accompany participants.

Important deadlines

30 Sept. 2000: receipt of the Registration Form.

30 June. 2001: receipt of Abstracts and Registration fee.

30 Aug. 2001: 2nd Circular of accomodation fees and future details.

Registration fees

The registration fees covers abstracts, coffee and reception party.

Regular:	\$120
Accompanying:	\$80
Student:	\$80
Field excursion:	\$200

Details for payment will be given in the Second Circular.

Conference Venue

The Meeting will be held at the conference room of the 2nd Student Activity Center of National Taiwan University, Taipei.

Accommodation

Accommodation will be available at the First Hotel,

Taipei (\$45-60 per day).

Single and twin rooms are available.

Other hotels (\$50-80 per day) in Taipei will be also available.

Excursion

-a four-days post -conference field excursion to eastern coast and 1999 earthquake fault are planned under the subject "Coastal evolution and neotectonics of the young mountain belt".

-a cultural visit to downtown Taipei will be offered during the conference.

Organizers:

Professor Ping-Mei Liew

Professor Yoko Ota

Professor Akio Omura

Ping-Mei Liew

Department of Geology

National Taiwan University

245, Chou-shan Rd, Taipei, Taiwan

Fax: 886-2-23636095

E-mail: liewpm@gl.ntu.edu.tw

Tel: 886-2-23630231 ext 2347

Local organizing Committee:

Ping-Mei Liew, Juei-Jin Chang

Huei-Cheng Chang, Chin-Wei Lin

C. T. Lee, Tsung-Kwei Liu

Shui-Bei Yu , Yoko Ota, Akio Omura

Registration Form

for the First International Meeting on

Sea-level changes and coastal evolution (INQUA) and Neotectonic (INQUA)

(Please return before 30 Sep 2000)

Name: Prof./Dr., Mr., Mrs. Ms. _____

Affiliation: _____

Address: _____

Fax: _____ Phone: _____

Email: _____

Paper: oral presentation _____ or poster presentation _____

Tentative Title _____

Are you interested in the field excursion? Yes / No

「学生会員継続届け」提出のお願い・・・学生会員の皆さまへ

皆様には現在 2000 年度年会費の請求書が届いていると思いますが、2000 年度から学生会員は、在籍中であることを毎年「学生会員継続届け」として提出して頂くことになりました。所属、氏名、指導教官等の署名を明記の上、2000 年 7 月 31 日までに日本学会事務センターまで郵送して下さい。本届けがない場合は、通常会員に変更となりますのでご注意ください。なお、日本学術振興会特別研究員（PD）や科学技術特別研究員などは、通常会員となります。

この件に関する問い合わせは、庶務幹事 斎藤文紀までお願いいたします。

Tel.0298-61-3772, E-mail: yoshi@gsj.go.jp

「学生会員継続届け」送付先：

〒 113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9

財団法人日本学会事務センター学会業務部

（日本第四紀学会）

記載事項：所属、氏名、指導教官等の署名

提出方法：郵送（文書の書式は問わない）

締め切り：2000 年 7 月 31 日（必着）

「日本における活断層トレンチ調査資料の総括（1998 年以前）」配布

「日本における活断層トレンチ調査資料の総括（1998 年以前）」という小冊子を地震予知総合研究振興会の補助金によってまとめました。ご入用の方は、A4 版封筒に住所と氏名を記入、270 円切手を張って、下記までお申し込みください。すぐ送付いたします（大田陽子）。

申し込み先：

145-0063

東京都大田区南千束 2-11-13-201

太田陽子

『第四紀研究』特価販売のお知らせ

- ・ 日本第四紀学会学会誌『第四紀研究』を下記の巻号につき期間限定の特価販売を行います。ご希望の巻 - 号数の右の [] に 印か部数を記入してファックスにて下記までお送り下さい。
- ・ 特価期間：2000年6月1日から9月29日まで
- ・ 特価（送料実費）にて請求書・振込用紙など書類同封のうえお送りします。公費お支払の場合は指定書類を作成同封いたしますのでご指示ください。
- ・ 通常号には残部僅少の号もありますので、品切の際はご容赦ください。
- ・ 下に掲げた各通常号を一部あたり特価（1,000円 + 消費税）にて販売いたします。
- ・ 下に掲げた各特集号を一部あたり特価（2,000円 + 消費税）にて販売いたします。

『第四紀研究』特価販売 申込用紙

『第四紀研究』通常号 一部あたり特価（1,000円 + 消費税）

第33巻 - 3号 [] 4号 []
 第34巻 - 1号 [] 2号 [] 4号 [] 5号 []
 第35巻 - 1号 [] 2号 [] 4号 [] 5号 []
 第36巻 - 1号 [] 2号 [] 3号 [] 4号 []
 第37巻 - 1号 [] 2号 [] 4号 [] 5号 []

『第四紀研究』特集号 一部あたり特価（2,000円 + 消費税）

第33巻 - 5号 [] 『東アジアと日本の遺跡をめぐる古環境』
 第34巻 - 3号 [] 『高精度年代測定と第四紀研究』
 第35巻 - 3号 [] 『平野の自然と人類史 - 越後平野を例にして - 』
 第36巻 - 5号 [] 『最終氷期の終焉と縄文文化の成立・展開』
 第37巻 - 3号 [] 『東アジアから西太平洋へ - 陸・海・ヒトのテレコネクション - 』

発送先
 住所 〒 -
 氏名
 支払い：私費・公費（必要書類： ）
 TEL： () FAX： ()

販売：財団法人日本学会事務センター 事業部
 〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9
 TEL:03-5814-5811 FAX:03-5814-5822 E-mail:sub@bcasj.or.jp

公募 北海道大学大学院地球環境科学研究科 助手・助教授

平成 12 年 3 月 15 日
関係機関 関係学部(学科)長 殿 関係各位
北海道大学大学院地球環境科学研究科長 西 則雄
教官の公募について(依頼)
謹啓、時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。このたび、本研究科では下記の要領により教官の応募を致します。つきましては、ご多用のところ恐縮に存じますが、貴機関の関係者へのご周知方と適任者の応募について御高配賜りますようお願い申し上げます。
記
1. 公募人員： 助手 1 名
2. 所属： 地圏環境科学専攻、地球環境変遷学講座
3. 専門分野： 地球化学・堆積学・古生物学などで用いられる手段を駆使して古環境解析を目指す方
4. 年齢： 35歳以下が望ましい
5. 提出書類： (1) 履歴書 (2) 研究業績リスト(原著論文、総説、その他) (3) 主要論文の別刷またはコピー(3編) (4) これまでの研究概要と今後の抱負(2000字以内) (5) 応募者について御意見を求めることのできる方2名の氏名、所属、連絡先
6. 応募期間： 平成12年6月12日(月)必着
7. 着任時期： できるかぎり早い時期
8. 書類送付先： 〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目 北海道大学大学院地球環境科学研究科 地圏環境科学専攻 南川雅男 宛 (応募書類と朱筆し、簡易書留で送付すること)
9. 当該講座教官： 教授：大場忠道(¹⁸ Oと ¹³ Cによる古環境復元) 教授：南川雅男(有機・同位体地球化学による古環境復元) 助教授：長谷川四郎(底生有孔虫による古環境復元) 助教授：公募中 助手：本公募
10. 問い合わせ先： 南川雅男 Tel: 011-706-2234、Fax: 011-706-4867 電子メール: mas@ees.hokudai.ac.jp

平成 12 年 4 月 14 日
関係機関 関係学部(学科)長 殿 関係各位
北海道大学大学院地球環境科学研究科長 西 則雄
教官の公募について(依頼)
時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。本研究科では、さきに「助教授または講師」の募集をしてまいりましたが、適任者の応募が得られませんでしたので、下記の要領により教官の再公募を致します。つきましては、ご多用のところ恐縮に存じますが、貴機関の関係者へご周知のほど宜しくお願い申し上げます。なお、専門分野、構成員については前回と若干異なっております。
記
1. 公募人員： 助教授 1 名
2. 所属： 地圏環境科学専攻、地球環境変遷学講座
3. 専門分野： 地球化学、地質学のいずれかの分野に係わり、地球環境変遷、古海洋環境に関する研究と教育を行う熱意にあふれた方。本研究科大学院学生ばかりでなく理学部地球惑星科学科学生の教育および全学教育にも携わって頂くことがあります。
4. 年齢・国籍： 特に問いませんが、35才以上が望ましい
5. 提出書類： (1) 履歴書 (2) 研究業績リスト(原著論文、総説、その他) (3) 主要論文の別刷またはコピー(5編) (4) これまでの研究概要と今後の抱負(2000字以内)
6. 応募期間： 平成12年6月30日(金)必着
7. 着任時期： できるかぎり早い時期
8. 書類送付先： 〒060-0810 札幌市北区北10条西5丁目 北海道大学大学院地球環境科学研究科 地圏環境科学専攻 南川雅男 宛 (応募書類と朱筆し、簡易書留で送付すること)
9. 当該講座教官： 教授：大場忠道(¹⁸ Oと ¹³ Cによる古環境復元) 教授：南川雅男(有機・同位体地球化学による古環境復元) 助教授：長谷川四郎(底生有孔虫による古環境復元) 助教授：(本公募) 助手：(別途公募中)
10. 問い合わせ先： 大場忠道 Tel: 011-706-2233 ; Fax: 011-706-4867 電子メール: oba-tad@ees.hokudai.ac.jp

第 17 期・第 9 回第四紀研究連絡委員会
議事録

日時：1999 年 12 月 04 日（月）13：30～16：30

会場：東大理学部地理学教室会議室

出席：太田陽子 鎮西清高 大場忠道 小泉 格
小野有五 小池裕子 坂上寛一 町田洋
小野 昭

欠席：酒井潤一 砂村継夫 増田富士雄 吉川周作
(順不同敬称略)

1. 報告

1) 日本学術会議 報告(鎮西清高氏)資料有り。

(1) 学術会議の自己改革について 研連活性化に
関し、年度毎に設定した課題への取り組みをプロ
グレスリポートとして出すことになった。

(2) 科研費時限付き「生物多様性」(これをもう一
度推すことになった)

(3) その他、地質科学総合研究連絡委員会、地質科
学関連学協会連合(仮)について報告有り。

2) INQUA15 回大会(南ア、ダーバン市)報告
(太田陽子氏)新会長に Sir N. J. Shackleton
が選出さる。次回 2003 年アメリカのネバダで
開催と決定。台湾が Geographical region のカ
テゴリーで加入が認められた。

3) 第四紀研連主催シンポジウム報告(坂上寛一氏)
「完新世古土壌をめぐる諸問題」1999 年 10 月 22
日に開催。参加は 50 名強であったが実質的な議
論ができた。これを契機として「古土壌研究会」
を組織することとなり、今後 INQUA の古土壌の
委員会との対応ならびに連絡を密にすることが了
承された。

2. 審議

1) 概算要求 12 月 28 日期限

2) 国際会議派遣申請(2000 年 4 月～2001 年 3 月
までの会議)太田陽子氏が申請することになった。

3) 科研費分科細目および時限付き研究題目につ
いて：窓口は地質科学総合研連で審査委員を推薦。
時限付きの細目については、申請件数の潜在的な
可能性などを学会レベルで慎重に検討する必要が
ある。

4) 17 期第四紀研連主催のシンポジウムの準備
・「更新世-完新世移行期の年代論と考古学・人類
学：その相対年代・数値年代・暦年較正を探る」
(オーガナイザー小野昭・松浦秀治)をテーマに
2000 年の 6 月開催の予定で現在準備を進めてい
る。

・町田洋/小池裕子両氏をオーガナイザーとする
シンポジウム

テーマA (仮)21世紀を迎えるにあたって第
四紀研究はなにを成すべきか:専門のシンポとす
る。2001 年の 1 月か 2 月の評議会の時にあわせ
て実施を予定したい(担当町田氏)。

テーマB 広く一般を対象として第四紀研究
のキャンペーンとなるようにする。いくつかテ
ーマを考え案を集約する(担当 小池氏)

5) 第四紀研連問題点

・委員の出席率を上げる。

・INQUA のコミッションの関連の委員が研連の
委員に選出されるよう工夫が必要。あわせて第
四紀学会の幹事会と第四紀研連の委員会の緊密な連
携を進めるために、委員のポストについても工夫
が必要であることなどが具体的に議論された。

6) INQUA の活動および大会の日本招致の検討につ
いて、ワーキング・グループの報告をもとに
議論した。検討を積み重ねて 2002 年には国内体
制を明確にする必要がある。

日本第四紀学会 1999 年度第 6 回幹事会
議事録

日時：2000 年 3 月 11 日(土) 10:30～13:00

会場：筑波大学学校教育部 合同会議室(E235)

出席者：米倉伸之、真野勝友、斎藤文紀、中村俊夫、
小田静夫、鈴木毅彦、福澤仁之、竹村恵二、
中川庸幸

欠席者：熊井久雄、松浦秀治、奥村晃史、太田陽子

報告事項

(1) 庶務

会員消息 1999 年 12 月と 2000 年 1 月分の報告、
日本第四紀学会論文賞選考委員の委嘱状の送付報
告、学術会議会員候補と推薦人の書類提出報告、
第 2 回評議員会で承認された研究委員会の通知が
送れているので、早く処理したい。

(2) 行事

第四紀学会 2000 年大会は通信 2 号に概要報告と
一般発表の申し込みを掲載、シンポジウムに関し
ては次号に掲載予定、2000 年合同学会大会の第
四紀セッションへは 28 件の発表申込があった。

現在，渉外幹事を中心にプログラムの作成中．

(3) 企画

ミニシンポジウム「日本列島の旧石器動物群をめぐる諸問題」(2000 年 1 月 29 日，東京都立大学で開催) は，約 140 名が参加し，盛況であった．資料集 (200 部) も完売した．第 8 回日本第四紀学会講習会は，日本第四紀学会主催で鹿児島県上野原遺跡で開催する．時期は，鹿児島県埋蔵文化センターと調整中．

(4) 会計

会誌印刷費は若干赤字だが問題なし．会報印刷費も予算通り．現状での収支バランスは特に悪くない状況．

(5) 編集

39 巻 2 号を現在印刷中．3 号には INQUA 報告が掲載の予定．4 号はシンポジウム特集号．編集幹事 (福澤) が，3/31-7/1 まで海外出張のため，当該期間の編集幹事代行を宮内崇裕編集委員に編集委員会としてお願いした．

(6) 渉外

地球惑星科学関連学会関係は 2000 年大会に向け

て現在プログラムの作成中．自然史学会連関係では，2000 年秋のシンポジウムが博物館標本とデータベースが予定されている．地質科学関連学協会では創立集会在 2000 年 3 月 27 日に学術会議で開催される．地球環境科学関連学会協議会は特になし．

審議事項

(1) 庶務

日本学術会議からの「インターアカデミーパネル 2000 年会議及び第 8 回アジア会議」の協力 (後援) 依頼を承認した．会費滞納者に関しては 3 月に送付される請求書に督促状を同封することになった．

(2) 渉外

2001 年以降の合同大会の開催方式に関しては，日本第四紀学会としては参加学会へ均等に負担を強いる案に対しては反対し，核となる学会を中心に運営できるように要望することとなった．

(3) 編集

論文の査読手続に関して，投稿者への対応に関して，編集委員会内での担当者と編集委員会の判断に混乱が生じないように手続きを編集委員会で議論することとなった．評議員会資料について最終確認を行った．

第四紀通信に原稿をお寄せ下さい

広島大学文学部地理学教室 奥村晃史 〒739-8522 東広島市鏡山 1-2-3

kojiok@hiroshima-u.ac.jp

Phone: 0824-246657 Fax: 0824-240320

メールアドレスが変わりました

次号は7月上旬原稿締切 - 8月上旬発行予定です。

インターネットにアクセスできる方は第四紀学会ホームページ

<http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/qr/> で最新情報をチェックして下さい。